

## 小規模店舗での高齢者の買物行動に関する研究

### A Study on the Shopping Behavior of Older Adults in Small Retail Outlets

○小森祐基<sup>1</sup>, 植田瑞昌<sup>2</sup>, 田中賢<sup>2</sup>\*Yuuki Komori<sup>1</sup>, Mizuyo Ueda<sup>2</sup>, Yasushi Tanaka<sup>2</sup>

Abstract : To examine accessibility issues in small-scale stores, an observational study was conducted. The results revealed that frail elderly individuals use three distinct modes of mobility besides wheelchairs: cane users, shopping cart users, and walker users. Problems and solutions were considered based on the shopping behaviors of each group.

#### 1. 研究の背景と目的

日本では高齢化が急速に進展しており、買物は高齢者にとって日常生活の自立を維持するうえで欠かせない活動である。高齢者に多くみられる買物弱者対策は経済産業省でも様々な支援策を検討している<sup>[1]</sup>。小規模店舗は生活圏に近く利用頻度も高いが、バリアフリー化は店舗側にとりスペースなど負荷が大きく、進展しない要因となっていた。そこで国土交通省はバリアフリー設計のガイドラインである「高齢者、障害者等の円滑な移動等に配慮した建築設計標準」を改正し、新たに小規模店舗のバリアフリー設計についての考え方を示した<sup>[2]</sup>。しかし、そこでの記載内容は車いす利用に対するものがほとんどである。

そこで本研究では小売店舗内で、高齢者が移動用福祉機器（車いす・杖・歩行車・買い物キャリーなど）を用いて買物行動を行うのかを行動観察調査を行い、店内環境やサポート体制の改善検討を目指した。

#### 2. 研究方法

本研究は、松戸市内に位置するK店舗（292.5 m<sup>2</sup> 青果販売店）を調査対象店舗とし福祉用具を使用する高齢者の行動観察調査をした（表1）。

調査期間は、2025年6月29日から9月16日、延べ21日間実施した。店内行動は入店時・店内・会計時・荷詰め/退店時に分けて観察した。

表1 行動観察調査項目

項目	調査内容
調査日	観察日時、天候
高齢者属性	性別、年代(推定)、身体的特徴、同伴者の有無、来店頻度
移動方法変更	店舗入口での移動方法の変更
使用する移動用福祉用具	車いす・T字型杖・ロフトランド杖・松葉杖・歩行車・電動歩行車・買い物キャリー・シルバーカー 店舗入口での移動方法の変更
店内行動	滞在時間、行動順序、ショッピングカート使用の有無、入退店時の入口
購入物	諸王品購入数、購入物重量
周囲の行動・対応	他来店者の行動、店員の対応

#### 3. 観察調査結果

店舗利用者は500~600名/日、そのうち福祉用具利用者は2%弱（延べ88人）であった。その内訳は、杖使用者が最も多く40名、次いで買い物キャリー利用者が

28名、歩行車利用者が7名であった。

屋外から小規模店舗への移動手段別に店内での一連の行動の流れをT字型杖使用者（図1）、買物キャリー使用者（図2）、歩行車使用者（図3）に類型化し配慮提案をあげた。

車いす使用者に関しては、本調査対象店舗への来店は散見される程度であり、店先での店員サポートの対応である。また既に国土交通省のガイドラインでも扱われているため本稿では対象としない。

それぞれの移動方法により問題点は異なる。通路床に買物かごを置き買物行動をとる場合には一般買い物客の躓きリスク。後方に買物キャリーを引っ張って来店し、前方で買物カートを押して買物行動をした場合の全長の長さによる移動の困難さ。歩行車使用者の休憩行動による通路の占有。一般買物客へ与える影響が大きいことが示された。

#### 4. まとめ

本研究は、小規模店舗における高齢者の買物行動を詳細に観察し、移動用の福祉機器別に店内での買物行動や会計行動などを整理し、そこで生じる具体的な困難や改善点を把握した。

今後はモックアップを用いた空間検証、調査店舗の増加、店舗側への聞き取り調査を実施し、より安全で利用しやすい小規模店舗の環境の構築を目指したい。

#### 参考文献

- [1] 経済産業省：買物弱者対策支援について  
<https://www.meti.go.jp/policy/economy/distribution/kaimon-ojakusyashien.html>（最終閲覧2025年9月末）
- [2] 国土交通省：小規模建築物に対応した建築物バリアフリー基準を整備します～「高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律施行令の一部を改正する政令」を閣議決定～、令和2年12月4日  
[https://www.mlit.go.jp/report/press/house05\\_hh\\_000848.html](https://www.mlit.go.jp/report/press/house05_hh_000848.html)（最終閲覧2025年9月末）

1：日大理工・学部・まち 2：日大理工・教員・まち

T字型杖使用者	買物かごを床に置く者の傾向
	<p>ショッピングカート不使用者(買物かごを手を持って買物行動をする者)で、かごを床に置く者は買物かごを常持っている者に比べて、<b>身体機能の低下</b>がうかがえた。また常時放置の場合は同一動線を往復するため、時々放置する場合や常にかごを持っている場合に比べて<b>移動距離が増え、買い物時間がかりやすい</b>傾向がある。重い買物かごを床に置いて買物行動する場合は、軽度な負荷を長時間かけて行う買物行動となる。</p>
	買物カート使用者の傾向
	<p>買物カート使用者の半数以上がT字型杖を入口で置いて買物行動へ移行する。買物カートの操作により歩行は安定している。また買物カート使用の場合は<b>購入物が多い</b>傾向にあり、退店後の移動に負荷がある。</p>

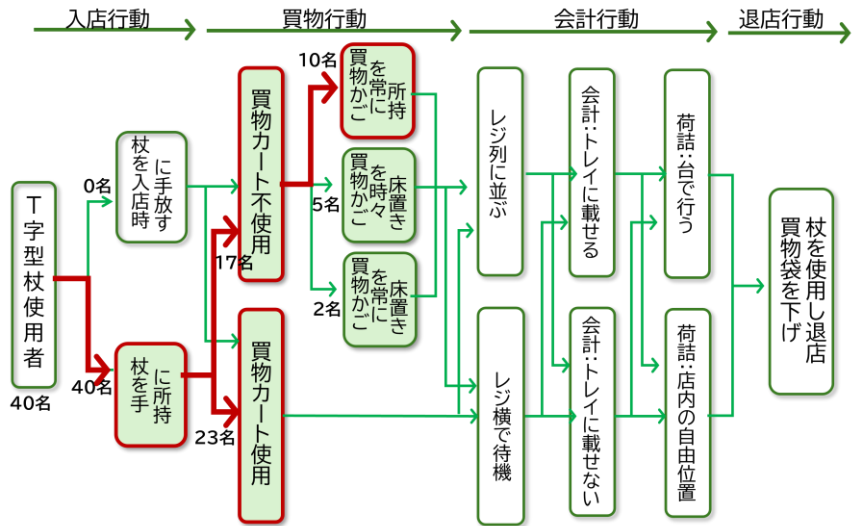


図1 T字型使用者の買物行動の流れと配慮提案

買い物キャリー利用者	入店後、買物キャリー不使用型の傾向
	<p>多くの場合、二輪の買い物キャリーを引いて入店後、買物キャリーを店の隅において店内の買物カートを押すか、買い物かごを手を提げて買物をする。また会計後はサッカー台に荷物を置き買物キャリーを持ってきて商品を詰めて退店する。店出入口付近に買物キャリーが店の隅に置かれ、<b>盗難の危険もある</b>。また、ほかの客の踏み事故の要因にもなる。 配慮提案: 買物キャリーを停車するスペースを店内に設け、ほかの客の安全確保をする</p>
	買物キャリーとカート併用型の傾向
	<p>自身の買い物キャリーと買物カート同時しよ応の場合、全長が長くなり<b>曲がり操作が難しく、棚角部に衝突しやすい</b>。細やかな操作が難しいため、他の客の買物行動を妨げやすい。 配慮提案: 曲がり角各部の棚を隅切りをする</p>

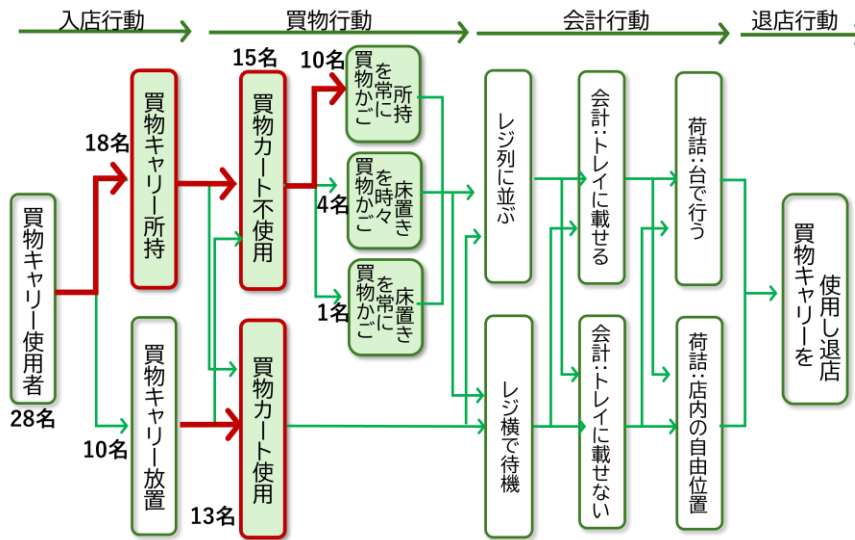


図2 買物キャリー使用者の買物行動の流れと配慮提案

歩行者利用者	買物行動中休憩しない型傾向
	<p>歩行者使用者は歩行に安定感がない、また歩行車の機構上、腰から下には手が届かない場合がある。<b>移動速度は遅く、買物行動はほかの客より時間がかかっている</b>。 配慮提案: 安全性の確保など考慮し、来店時の見守りを徹底し、下方の商品取りの際には声掛けを行う</p>
	買物行動中、休憩型の傾向
	<p>買物中に通路の端・通路中央で歩行車に座り、かごをその横に置き一休みする行動をとる。通路中央(通路中央)に座るとかごの幅もあり、<b>通路を塞がれほかの客の動線を妨げる</b>。 配慮提案: 限りある店内に少しだけ、凹部を設け、一休みしやすい環境を整える</p>

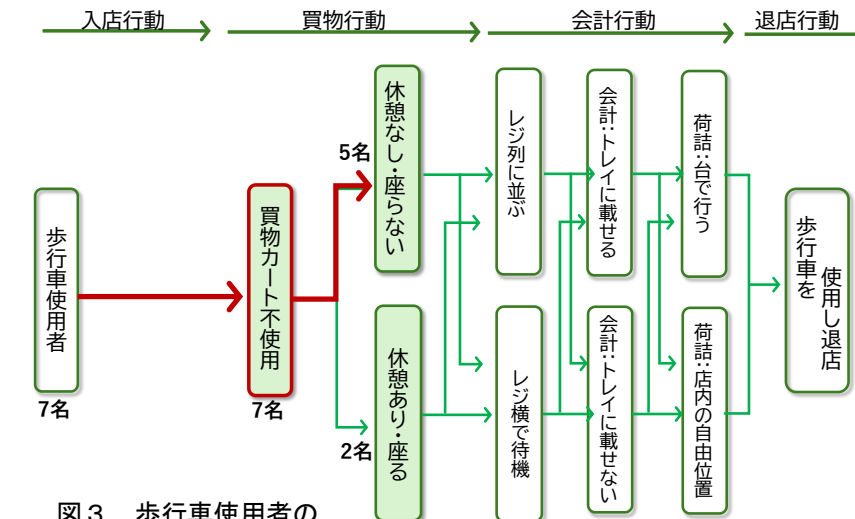


図3 歩行者使用者の買物行動の流れと配慮提案